

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であると考え。 そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。				
教 科 書	教科書は指定しない 手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチは毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標5	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%		70%	
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点
その他	算出方法		算出方法	
試験日	通学再開をもって設定		通学再開をもって設定	

★追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で3年以上の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的な手技を中心に実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頸部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11	側臥位における頸部へのあん摩施術の練習	
12	前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15	前期実技試験、前期学習内容の復習	
16	前期実技試験、前期学習内容の復習	
17	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
18	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
21	腹臥位における頸肩部へのあん摩施術の練習	
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習	
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習	
25	坐位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26	側臥位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習	
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
31	腹臥位におけるあん摩の通し練習	
32	全身のあん摩施術の総復習	

その他の事項

通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。
授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

専 門 分 野

(マッサージ実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	マッサージは術者の手指をもって生体の皮膚に直接、主として求心性の手技により血液、リンパ液の循環を改善させ、生体の変調を調え健康を保ち増進させる施術である。求心性の手技を強弱の刺激として生体に加えることにより、生体に多種多様の反応が期待できる。様々な状況に対して施されるマッサージ施術は、基本手技（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・圧迫法）を組み合わせで成り立っており、基本手技の習得は不可欠である。本授業では、身体各部位に対する基本手技を繰り返し練習することで、マッサージの基本手技を習得することを目的とする。				
教 科 書	『あん摩マッサージ指圧実技 基礎編』医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	求心性に行う意味を説明できる。
目標2	関節を超えて施術をする意味を説明できる。
目標3	患者の皮膚に術者の手を密着させた軽擦法ができる
目標4	手関節の柔軟性を生かした揉捏法ができる。
目標5	リズムカルでスムーズな叩打法ができる。
目標6	末梢からのリンパ液、静脈血の還流を促進するための基本手技ができる。
目標7	各基本手技をスムーズにできる。
目標8	体を使って施術ができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%		70%	
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	30%	算出方法	30%	算出方法
		欠課1回毎に2点減点。 遅刻および早退1回毎に1点減点		欠課1回毎に2点減点。 遅刻および早退1回毎に1点減点
その他	算出方法		算出方法	
試験日				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。

実務経験
をいかした
教育内容

臨床の場で必要となる相手への配慮を踏まえて、マッサージの基礎実技を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、マッサージの目的及び基本手技の説明	
2		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群のマッサージ施術	
3		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群のマッサージ施術	
4		基本手技の練習、大腿部後側筋群のマッサージ施術	
5		基本手技の練習、大腿部後側筋群のマッサージ施術	
6		基本手技の練習、殿部のマッサージ施術	
7		基本手技の練習、殿部のマッサージ施術	
8		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群・大腿部後側筋群・殿部のマッサージ施術	
9		基本手技の練習、足底部・下腿部後側筋群・大腿部後側筋群・殿部のマッサージ施術	
10		基本手技の練習、僧帽筋群のマッサージ施術	
11		基本手技の練習、僧帽筋群のマッサージ施術	
12		基本手技の練習、広背筋群・棘下筋群のマッサージ施術	
13		基本手技の練習、広背筋群・棘下筋群のマッサージ施術	
14		基本手技の練習、脊柱起立筋群のマッサージ施術	
15		基本手技の練習、脊柱起立筋群のマッサージ施術	
16		基本手技の練習、背腰部のマッサージ施術	
17		前期実技試験、前期授業内容の復習	
18		前期実技試験、前期授業内容の復習	
19		基本手技の練習、頸部のマッサージ（座位）施術	
20		基本手技の練習、頸部のマッサージ（座位）施術	
21		基本手技の練習、頭部のマッサージ（座位）施術	
22		基本手技の練習、頭部のマッサージ（座位）施術	
23		基本手技の練習、足指・足背のマッサージ（仰臥位）施術	
24		基本手技の練習、足指・足背のマッサージ（仰臥位）施術	
25		基本手技の練習、下腿前側筋群・外側筋群のマッサージ（仰臥位）施術	
26		基本手技の練習、下腿前側筋群・外側筋群のマッサージ（仰臥位）施術	
27		基本手技の練習、大腿前側筋群・内側筋群・外側筋群のマッサージ（仰臥位）施術	
28		基本手技の練習、大腿前側筋群・内側筋群・外側筋群のマッサージ（仰臥位）施術	
29		後期実技試験、後期授業内容の復習	
30		後期実技試験、後期授業内容の復習	
31		基本手技の練習、足関節・膝関節のマッサージ施術	
32		基本手技の練習、足関節・膝関節のマッサージ施術	

その他の事項

専 門 分 野

(指圧実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2020 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	上田 恵介				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	本校オリジナルの指圧テキストを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付、板書等交えながら実施する。特に安全面に注意しながら、効率的な身体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険性を伴う。したがって安全に操作が行えるようになることを第一とする。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標2	安全に操作する方法を説明できる。
目標3	基本操作を手順通り行える。
目標4	基本操作を安全に行える。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院にて2年、他治療院2年間、往診専門で開業3年、本校附属治療所で5年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容		
回数	内 容	備考
1	導入 指圧に関する基礎知識 1 あま指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度など	
2	導入 指圧に関する基礎知識 2 押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半） 姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査、肩の安全確認	
4	〃 背部全体の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）、体傾荷重について	

5	〃	一側線の両母指圧
6	〃	二側線の両母指圧
7	〃	三側線の両母指圧
8	〃	肩甲骨周囲部の両母指間圧迫（内側縁）
9	〃	腰側線の両母指圧
10	〃	仙骨両側の両母指圧（挟み込み）
11	〃	下肢の掌圧及び母指圧操作固定に関して、固定の意義 （正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作、委中・アキレスの1点圧、足裏の操作）
12	〃	（内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）
13	〃	（外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）
14	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
15	前期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習
16	試験後の総評	前期伏臥位総復習
17		伏臥位（後半） 肩上部、肩背部母指圧（T6, 7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1側線上部）
18	〃	上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）
19	〃	肩甲骨内側縁の母指圧
20	〃	一・二・三側線の両母指圧（治療的）、腰側線の両母指圧
21	〃	仙骨孔の4点母指圧（後仙骨孔の指標）
22	〃	下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み）
23	〃	下肢操作（足関節の回転運動、膝関節回転法）
24	〃	下肢操作（前脛骨筋の手根圧、下肢操作復習）
25	〃	大腿前面部伸展法、腰部伸展法
26	〃	後半総復習
27	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
28	後期実技試験	試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習
29	試験後の総評	後期伏臥位総復習
30	指圧総合	指圧伏臥位通し

その他の事項

<試験成績> 100%

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○身だしなみ：（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

<教員メッセージ>

・指圧実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があって、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、1年間練習に励んでください。

<その他>

※実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。